



2019年度 基礎研修実施状況

研修部



東日本および西日本研修センターでは、2019年度も4月から8月にかけて、各社の新入社員を対象とした基礎研修を実施しています。受講生は、線路科100名、土木科50名、所内科220名、電力科50名、所内・所外統合科70名、総勢約490名と、昨年度よりも約1割増加しています。

1. 基礎研修の概要

基礎研修は通信設備建設における基礎知識および安全の基本を学び、情報通信エンジニアとしてのベースを身につけることが目的です。

各コースとも技術・方式はもとより、建設工事の基礎がポイントとなります。そこではNTT様の工事規格や事例をベースに、座学と実習を通じて専門用語の理解、決まり、考え方を学びます。

安全については基本動作の実践と作業に伴う危険への気づきが基本です。事件事例学習、KYT、危険体感等を取り入れるとともに、カリキュラムの要所要所に作業

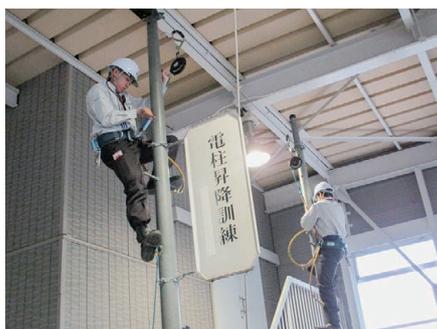


写真1 安全研修



写真2 朝礼



写真3 北陸電話工事(株) 中村人材開発室長

に潜む危険ポイントを織り込むなど、何事も安全が最優先されることの意識づけを行っています(写真1)。

育成の一環として1日の始まりに朝礼を実施します。朝礼は行動を通じ、安全と仕事を成就するための基本行動であり、仲間同士で気持ちを引き締め相互に確認し合う観点からも職場づくりに資するものです(写真2)。

また、西日本研修センターでは、各人材開発部門の幹部による講話を実施しています。今年はミライト・テクノロジー 岩井喜照様、北陸電話工事 中村雅哉様、ソルコム 土居和隆様にお願ひしました。社会人としての心構え、企業人として大切にすべきことなど、先達からの経験を基にした話は受講生の動機付けであり今後の道しるべになるものです(写真3)。

2. 基礎研修の実施内容

①基礎研修線路科(14日間)(写真4)

基礎研修線路科は今年度から時代の変化に応じてユーザ系、設計系カリキュラムを中心に大幅に見直しました。具体的には、従来の光・メタル接続などのアクセス設備実習をコンパクト化し、トータル日数を増やさずに新たにお客様宅への光開通工事やインターネット・無線LAN設定実習、アクセス設備の簡易設計演習(光・メタル)などを追加しました。

また、安全メニューとして危険体感カリキュラムに加え、今年度からフルハーネス型墜落制止用器具特別教育を取り入れました。



写真4-1 基礎研修線路科
(東日本研修センター 第1回)



写真4-2 基礎研修線路科
(東日本研修センター 第2回)



写真4-3 基礎研修線路科
(北海道 第1回)



写真5-1 基礎研修土木科
(東日本研修センター 第1回)



写真5-2 基礎研修土木科
(東日本研修センター 第2回)



写真6-1 基礎研修所内科
(東日本研修センター 第1回)



写真6-2 基礎研修所内科
(東日本研修センター 第2回)



写真6-3 基礎研修所内科
(西日本研修センター 第1回)



写真6-4 基礎研修所内科
(西日本研修センター 第2回)



写真7-1 基礎研修統合科
(東日本研修センター 第1回)



写真7-2 基礎研修統合科
(東日本研修センター 第2回)

②基礎研修土木科(13日間)(写真5)

基礎研修土木科は通信土木設備建設の概要・特徴から始まり地下管路工事等の基礎知識、各図面・設備記録などの理解ポイントについて学習します。

期間中3日間実施されるマンホール・管路工事実習では、長年人が構内に入らずに管路を布設するSAPIC工法を実施してきましたが、今年度からは昨今の通信土木工事で一般的に用いられる工法、用品を取り入れたものに見直しました。また本格導入になった新型のマンホール鉄蓋も用意し、新旧さまざまな技術、用品を学べるようになっていきます。

③基礎研修所内科(11日間)(写真6)

昨年度同様、通信方式のベースとなるデジタル通信技術、各装置・サービスに応じた信号処理方式、その上で通信方式の主流となった

TCP/IP技術とNGN等の装置概要を学びます。実習ではルータ設定を中心にIP通信の基本を確認する機会としています。

無線については電波の性質、種類、変調方式などの基礎と、方式としては固定無線と合わせて移動無線の内容を多く取り入れています。

④基礎研修電力科(8日間)

例年受講ニーズが30名ほどでしたが、今年度は50名と大幅に増え2回開催としました。内容的には昨年同様電力供給先となる各種通信設備の概要から始まり、通信用電力技術および設備の基礎について座学を行い、実習では感電・短絡防止のための養生を始め電力ケーブル工事、ラックへの吊り込み、耐圧試験ほか各種測定等を実施します。

昨年度から開始した低圧電気取扱業務特別教育カリキュラムについても好評で、今年度は基礎研修日程に

連続設定したコースだけでも全体で250名が受講します。

⑤基礎研修統合科(22日間)(写真7)

基礎研修線路科と基礎研修所内科を合わせた内容です。

3. おわりに

新入社員のみなさんは1カ月前後の期間、先輩講師陣から多くを学び、頭と体を使って自ら取り組み、同輩とのコミュニケーションを図ったことでエンジニアとしての自覚を高められたのではないかと思います。また、本研修での知識、基本動作、気づきはこれからの仕事に活かされていくことでしょう。

今後、受講生のみなさんが、安全の上にスキルを磨き、情報通信エンジニアとして成長されていくことを願っております。